

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年6月27日
【事業年度】	第81期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）
【会社名】	東京青果株式会社
【英訳名】	TOKYO SEIKA CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 C O O 川田 光太
【本店の所在の場所】	東京都大田区東海3丁目2番1号
【電話番号】	東京5492局2013番
【事務連絡者氏名】	経理部部长 廣 佳明
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区東海3丁目2番1号
【電話番号】	東京5492局2013番
【事務連絡者氏名】	経理部部长 廣 佳明
【縦覧に供する場所】	該当なし

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1)連結経営指標等

回次	第77期	第78期	第79期	第80期	第81期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高 (千円)	236,211,229	232,577,378	243,337,214	112,336,656	121,550,757
経常利益 (千円)	2,583,726	2,066,698	3,438,144	3,044,147	2,966,706
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,823,631	1,429,981	2,461,889	2,266,783	2,238,242
包括利益 (千円)	1,680,817	1,169,741	2,958,533	2,147,232	2,264,056
純資産額 (千円)	31,954,163	32,908,804	35,652,237	37,972,264	39,949,238
総資産額 (千円)	42,469,807	42,400,903	45,735,308	48,537,121	50,349,097
1株当たり純資産額 (円)	3,342.49	3,442.34	3,729.31	3,928.92	4,134.80
1株当たり当期純利益金額 (円)	190.76	149.58	257.52	237.11	234.13
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.24	77.61	77.95	77.39	78.51
自己資本利益率 (%)	5.71	4.35	6.91	6.04	5.66
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,455,857	1,930,723	4,700,185	3,393,604	3,068,485
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	702,090	606,675	3,103,535	2,961,183	3,912,181
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,177,323	417,079	350,636	280,947	508,985
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	14,048,989	14,955,957	16,201,971	16,353,445	15,000,763
従業員数 (人)	683	686	684	765	739
(外、平均臨時雇用者数)	(77)	(37)	(30)	(26)	(34)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2. 当社の株式は、非上場かつ気配相場もないため、株価収益率は不明であります。

3. 当連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度の関連する主要な経営指標等については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額によっております。

4. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第80期の期首から適用しており、第80期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第77期	第78期	第79期	第80期	第81期
決算年月	2019年 3月	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月
売上高 (千円)	201,684,304	199,369,976	209,898,858	89,901,685	92,351,412
経常利益 (千円)	2,209,793	1,878,583	3,017,858	2,656,677	2,633,557
当期純利益 (千円)	1,496,312	1,286,024	2,081,890	1,834,233	1,967,676
資本金 (千円)	478,000	478,000	478,000	478,000	478,000
発行済株式総数 (株)	9,560,000	9,560,000	9,560,000	9,560,000	9,560,000
純資産額 (千円)	28,694,898	29,533,650	31,846,509	33,315,961	35,061,285
総資産額 (千円)	35,179,466	35,386,104	38,417,540	39,473,576	41,316,616
1株当たり純資産額 (円)	3,001.56	3,089.29	3,331.22	3,484.93	3,667.50
1株当たり配当額 (円)	22.50	22.50	25.00	30.00	30.00
(内1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	156.52	134.52	217.77	191.87	205.82
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	81.57	83.46	82.90	84.40	84.86
自己資本利益率 (%)	5.21	4.35	6.54	5.51	5.61
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	14.38	16.73	11.48	15.64	14.58
従業員数 (人)	529	532	532	536	521
(外、平均臨時雇用者数)	(28)	(23)	(17)	(15)	(17)
株主総利回り (%)	-	-	-	-	-
(比較指標：-) (%)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
最高株価 (円)	-	-	-	-	-
最低株価 (円)	-	-	-	-	-

(注) 1. 第81期の1株当たり配当額には、総資産400億円突破記念配当5円を含んでおります。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

3. 当社の株式は、非上場かつ気配相場もないため、株価収益率は不明であります。

4. 株主総利回り、比較指標、最高株価及び最低株価については、当社株式は非上場でありますので記載しておりません。

5. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第80期の期首から適用しており、第80期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## 2【沿革】

当社は、戦後の統制経済廃止の過程において、東京地域に唯一であった青果物の統制会社が、21の荷受機関に解体分割されましたが、そのうちの1つである旧東京青果株式会社より営業の一部譲渡を受け、東印東京青果株式会社として設立いたしました。

その後青果物の統制が、果実、漬物、野菜の順に撤廃されて行き、それに伴い東京都より各青果物卸売人の認可を受け、青果物の流通安定に努めてまいりました。そして、1971年7月に制定された現行の「卸売市場法」のもとに農林水産大臣より認可を受け、現在、東京都中央卸売市場大田市場の青果物卸売業者として営業しております。

会社設立後、現在までの沿革は以下の通りであります。

- 1947年 5月 旧東京青果株式会社の営業権の現物出資ならびに神田市場関係者の出資により、東印東京青果株式会社（資本金5,000千円）を設立。東京都知事より青果物統制令に基づき東京都中央卸売市場における都の荷受機関としての指定を受ける。
- 8月 青果物及び漬物配給規則により東京都の野菜公認荷受機関として登録。
- 1948年10月 東京都より果実部卸売人の認可を受ける。  
（1947年10月農林水産省令により果実の統制撤廃）
- 1949年 4月 東京都より野菜部卸売人の認可を受ける。  
（1949年 4月農林水産省令により野菜の統制撤廃）
- 1950年 5月 東京都より漬物部卸売人の認可を受ける。  
（1948年12月農林水産省令により漬物が統制物品より削除）
- 1951年 1月 貿易部（輸入青果物取扱い部）を新設。
- 1957年 3月 東光商事株式会社（現・連結子会社）を設立。
- 1962年 6月 商事部（瓶缶詰物取扱い部）を新設。
- 1963年 3月 立川丸共青果株式会社（現・東一川崎中央青果株式会社）と資本提携及び役員派遣を行う。同社は商号を株式会社東印三多摩青果市場に変更。
- 1967年 7月 東京丸一青果株式会社（資本金180,000千円）と合併し、資本金を478,000千円に増資。商号を東京青果株式会社に変更。
- 11月 東印青果サービス株式会社（現・東一川崎フーズ株式会社）を設立。
- 1968年 6月 昭島地方卸売市場を開設。株式会社東印三多摩青果市場が入場。
- 10月 東印昭島青果サービス株式会社（現・東一川崎フーズ株式会社）を設立。
- 11月 東印昭島青果サービス株式会社は商号を昭島青果サービス株式会社に変更。
- 1974年 5月 株式会社東印三多摩青果市場は商号を東一西東京青果株式会社に変更。
- 1975年 2月 栃木青果株式会社（現・東一宇都宮青果株式会社）を設立。
- 1977年12月 東印青果サービス株式会社は商号をウエスタンフード株式会社に変更。
- 1981年 6月 農林水産省の行政通達に基づき貿易部を分離、東京青果貿易株式会社（現・連結子会社）を設立。
- 1989年 5月 東京都中央卸売市場大田市場開場に伴い、神田市場より移転。
- 2002年 6月 栃木青果株式会社は商号を東一栃木青果株式会社に変更。
- 2009年12月 大田市場ロジスティクスセンター株式会社（現・連結子会社）を設立。
- 2012年10月 東一栃木青果株式会社を消滅会社、宇印宇都宮青果株式会社を存続会社とする吸収合併を行い、商号を東一宇都宮青果株式会社（現・持分法適用関連会社）に変更。
- 2013年 5月 川崎中央青果株式会社（現・東一川崎中央青果株式会社）の株式を追加取得し、同社は持分法適用関連会社となる。
- 10月 東一西東京青果株式会社を消滅会社、川崎中央青果株式会社を存続会社とする吸収合併を行い、商号を東一川崎中央青果株式会社（現・連結子会社）に変更。  
上記合併に伴い昭島地方卸売市場を閉鎖。また、川崎中央青果株式会社の子会社であった株式会社北部市場青果センター（現・東一川崎フーズ株式会社）が連結子会社となる。
- 2014年 1月 ウエスタンフード株式会社及び昭島青果サービス株式会社を消滅会社、株式会社北部市場青果センターを存続会社とする吸収合併を行い、商号を東一川崎フーズ株式会社（現・連結子会社）に変更。
- 2020年 3月 東一川崎フーズ株式会社を分割会社、東一川崎中央青果株式会社を分割承継会社とする吸収分割を行う。
- 2020年 7月 東一川崎フーズ株式会社を清算結了。
- 2022年 1月 東京神田青果市場株式会社の株式を追加取得し、同社は連結子会社となり、また同社は、商号を東一神田青果株式会社に変更。



### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（東京青果株式会社）、子会社7社及び関連会社3社により構成されており、中央卸売市場における青果物及びその加工品の卸売業を主たる事業としております。

当社、連結子会社である東一川崎中央青果株式会社、東一神田青果株式会社及び持分法適用関連会社である東一宇都宮青果株式会社は、農林水産大臣の認定を受けた卸売業者であり、それぞれ東京都中央卸売市場大田市場、川崎市中央卸売市場北部市場及び宇都宮市中央卸売市場において卸売事業を営んでおります。

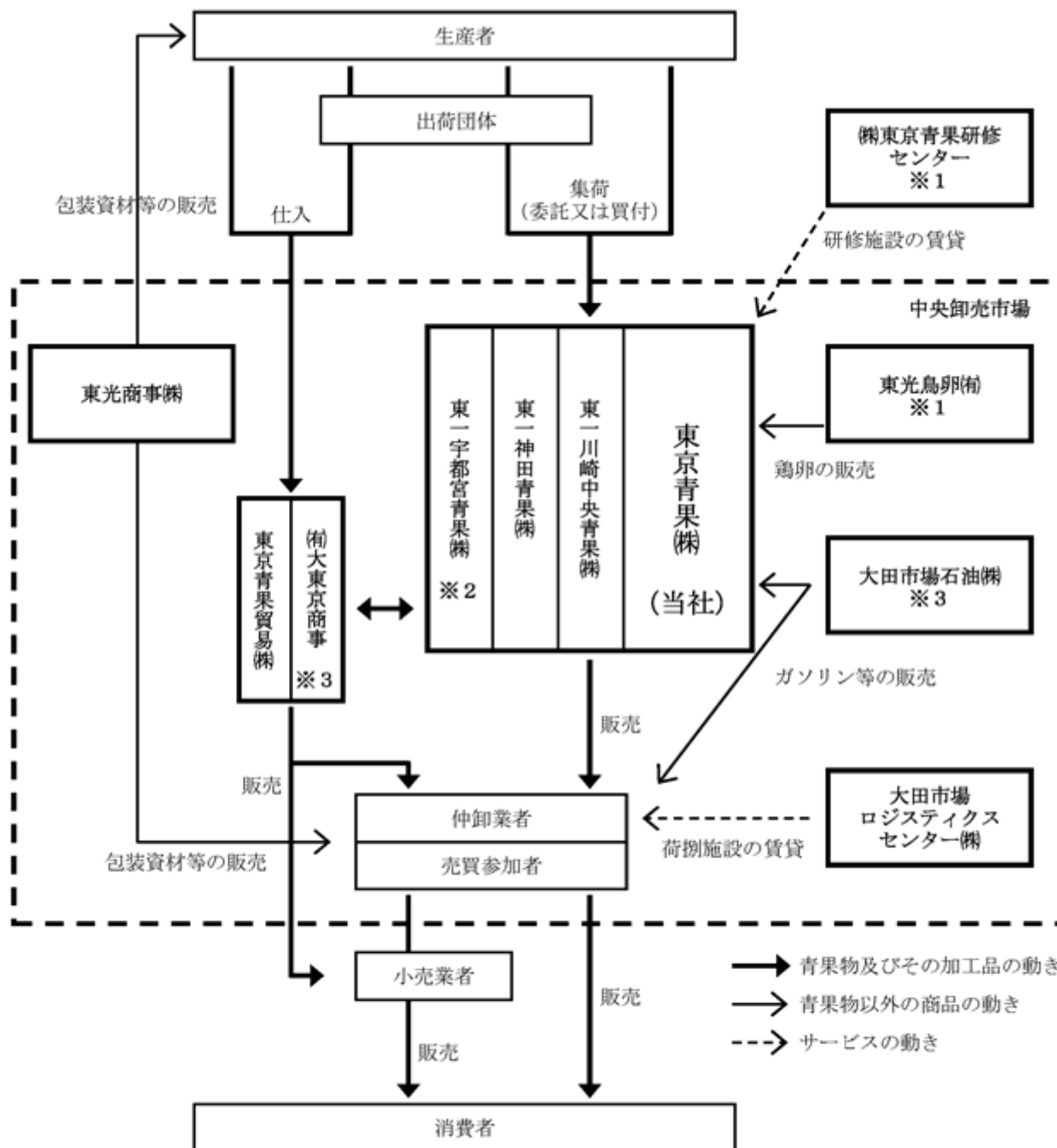
当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の3つの事業区分は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

事業区分	主な事業内容	会社名
果実事業	卸売市場法に基づき各中央卸売市場において全国より集荷した果実品目を市場内の仲卸業者及び売買参加者等に販売しております。	東京青果株式会社（当社） 東一川崎中央青果株式会社 東一神田青果株式会社 東一宇都宮青果株式会社 2
	諸外国から主に果実品目を輸入し、全国各市場の卸売業者、仲卸業者及び小売業者に販売しております。	東京青果貿易株式会社
	全国より果実品目を仕入れ小売業者及び加工業者に販売しております。	有限会社大東京商事 3
野菜事業	卸売市場法に基づき各中央卸売市場において全国より集荷した野菜品目及び青果物の加工品を市場内の仲卸業者及び売買参加者等に販売しております。	東京青果株式会社（当社） 東一川崎中央青果株式会社 東一神田青果株式会社 東一宇都宮青果株式会社 2
	全国より野菜品目を仕入れ小売業者及び加工業者に販売しております。	有限会社大東京商事 3
その他事業	青果物の包装資材等を生産者及び仲卸業者に販売しております。	東光商事株式会社
その他	荷捌施設の賃貸業務	大田市場ロジスティクスセンター株式会社
	東京青果グループ向け研修施設の経営	株式会社東京青果研修センター 1
	鶏卵の販売	東光鳥卵有限会社 1
	ガソリンスタンドの経営	大田市場石油株式会社 3

[ 事業系統図 ]

当社グループの取引について、事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) 無印 連結子会社  
 ※1 非連結子会社で持分法非適用会社  
 ※2 関連会社で持分法適用会社  
 ※3 関連会社で持分法非適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 東一川崎中央青果 株式会社 *	神奈川県川崎市 宮前区	80,000	果実事業・ 野菜事業	100.0	当社と青果物の販売又 は仕入れを行っている 当社より資金を借入れ ている 当社が債務保証をして いる 役員の兼任等...有
東一神田青果株式会 社 *	東京都大田区	48,000	果実事業・ 野菜事業	80.0	役員の兼任等...有
東京青果貿易株式会 社 *	東京都昭島市	90,000	果実事業	100.0	当社と青果物の販売又 は仕入れを行っている 当社より事務所を賃借 している 役員の兼任等...有
東光商事株式会社	東京都大田区	10,000	その他事業	100.0	当社へ包装資材等を販 売している 当社より事務所を賃借 している 役員の兼任等...有
大田市場ロジスティク スセンター株式会社 *	東京都大田区	100,000	その他	100.0	当社より資金を借入れ ている 役員の兼任等...有
(持分法適用関連会社) 東一宇都宮青果 株式会社	栃木県宇都宮市	270,000	果実事業・ 野菜事業	34.6	当社と青果物の販売又 は仕入れを行っている

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2. \* : 特定子会社に該当しております。  
3. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。



## 5【従業員の状況】

### (1)連結会社の状況

2023年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
果実事業	136( 1)
野菜事業	224( 4)
報告セグメント計	360( 5)
その他事業	13( 1)
全社(共通)	366(28)
合計	739(34)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除く)であり、臨時雇用者数(パートタイマー等)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。  
 なお、退職者及び人材会社からの派遣社員は人員数に含まれておりません。  
 2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、補助・管理部門に所属しているものであります。

### (2)提出会社の状況

2023年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
521(17)	41.2	14.1	6,680,959

セグメントの名称	従業員数(人)
果実事業	86( - )
野菜事業	160( - )
報告セグメント計	246( - )
全社(共通)	275(17)
合計	521(17)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除く)であり、臨時雇用者数(パートタイマー等)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。  
 なお、退職者及び人材会社からの派遣社員は人員数に含まれておりません。  
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、補助・管理部門に所属しているものであります。

### (3)労働組合の状況

当社グループとしての労働組合は組織されておりません。それぞれ個別の労働組合があります。  
 なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

### (4)管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

#### 提出会社

		当事業年度			補足説明
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2.	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.			
		全労働者	うち正規雇用労働者	うち非正規雇用労働者	
4.6	20.0	67.5	66.1	75.8	-

- (注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

連結子会社

名称	当事業年度					補足説明
	管理職に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2.	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.			
			全労働者	うち正規雇用労働者	うち非正規雇用労働者	
東一川崎中央青果株	4.9	66.7	67.4	68.8	101.9	-

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

3. その他の連結子会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社の企業理念である「市場流通の活性化を通じて、広く社会に貢献する」ため、大田市場を商流の基盤としたハブ化を更に推進し、全国産地の商流・物流の調整機能を担い、安定した商品供給体制の構築に取り組んでまいります。お客様の要望に応える信頼される会社として、生産者から消費者へのスムーズな流通、サービスを提供し、広く社会に貢献することを経営方針としております。

#### (2) 経営戦略

首都圏における販売力を活かした適時適確な価格形成を通じて産地との信頼関係を築き、全国産地からの集荷体制をより一層強化してまいります。具体的には、グループ取扱高3千2百億円達成に向けて、グループ各社の立地的優位性を活かし、直送を含めた戦略的取組みを立案、グループ全体の売上・利益の最大化を図ってまいります。また、成長機会創出のため業務加工に向けた取引、地方市場等の新規取引先、商品開発を推進するとともにパレット輸送などの青果物流通の効率化に向けた取組みを行ってまいります。また、将来を見据え営業及び管理部門の人材育成を推進してまいります。

#### (3) 経営環境

2020年6月の改正卸売市場法の施行に伴い、商物分離を中心に取引の自由化がますます進展していくと予想され、更に産地による市場集約化や異業種の参入、市場外流通の拡大等、外部環境が急速に変化していくことが想定されます。また、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や休業が次第に緩和されていく中で、外食産業への青果物の需要減が回復していく傾向にありますが、長期的にこの回復が続いていくかどうかについては、不透明であります。

#### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

安定的に青果物を供給する卸売市場としての役割を果たすことが重要であると認識しております。現状では、新型コロナウイルス感染症に対する政府や自治体による規制は緩和されてきておりますが、外食・業務加工向けの取引の落ち込みは回復傾向ではある一方で、所謂「巣籠もり需要」による量販店での青果物の需要増も減少傾向にあります。新型コロナウイルス感染症による業績への影響は限定的ではありますが、今後、外食・業務加工向け取引及び量販店における需要をともに注視し、状況に応じた対応、即ち需要の増加が見込める品目の見きわめが現環境下における優先的な事業上の課題であることを認識しております。また、コロナ禍以降を見据えての契約の見直しや加工・冷凍食品等の商談に注力することで、顧客増を図っていくことも課題と考えております。

財務上の課題としましては、買付利益率の向上や販売事故費を始めとした販売費及び一般管理費を削減することによる利益の増大によって自己資本を更に充実させていくことが課題であります。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。  
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

当社は、サステナビリティを巡る課題への対処は、経営の重要課題と認識しております。具体的には、気象変動や物流問題といった当社を取り巻く課題解決への取組と認識しております。

気象変動につきましては、「事業等のリスク」に記載の通り、気象変動による青果物の生産量が変動し、価格への影響によって当社の業績に大きな影響があることが考えられます。この対応として、国内の特定の生産地に偏ることなく、幅広い範囲の生産地から安定した供給ができるような集荷体制をとっています。

物流問題につきましては、多くの生産地から、多くの実需者に効率的に商品供給する卸売市場の集荷分荷機能の物流面での重要性が近年、再認識されるところであります。当社では、トラック1台分にまとまる様な荷量を扱う生産地と実需者を、市場を経由せずにつなげる直送取引を推進しており、更なる物流供給網の合理化に取り組んでおります。また、大田市場内におきましても、卸売場2層化施設整備による外部倉庫との輸送削減や、グループ化した東一神田青果株式会社との荷受け作業の共同化により場内物流を効率化し、さらに、電気運搬車両の利用増や場内の紙ごみ・梱包用ストレッチフィルムのリサイクル化など、温室効果ガスの低減に向けた取り組みを実施しております。

また、トラックドライバーに時間外労働の上限規制が適用される「2024年問題」については、パレットの利用を向上させることでトラックへの青果物の積み下ろし作業軽減やトラック予約システムの導入によるドライバーの待機時間の縮小を実現させることなどにより、ドライバーの労働時間の制限への対応も図ってまいります。

上記の通り、こうした課題へ取り組むことで、企業としての持続可能性の維持に繋がりたいと考えています。

### (1) サステナビリティ

#### ガバナンス

当社ではサステナビリティに特化したガバナンス体制を構築しておりません。

なお、コーポレート・ガバナンス一般については、「4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」に記載しております。

#### リスク管理

当社ではサステナビリティに特化したリスク管理を行っておりません。

なお、リスク管理体制については「4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」に記載しております。

### (2) 人的資本

#### 戦略

当社の人材育成の仕組は、予め受講講座を定めたEラーニング総合プログラム（講座は外部研修会社提供システムを利用）と、階層毎の個別研修の2本立てで構成されています。

前者は、「いつでも・どこでも・もっと手軽に」をシステムコンセプトに、全役職員が「コンプライアンス」「DX」「ダイバーシティ」等、社として取り組むべき課題に関する講座を年間スケジュールに則って受講しています。マネジメントスキル・ITスキル・時事問題等、600を超えるコースを用意し、個々人がその中から自身の興味のあるものを選んで受講しています。このように、Eラーニングの特徴を生かし、PCでもスマホでも、デバイスや場所に縛られず学習できる環境を提供することによって、自主学習意識の醸成といった風土改革も視野に運用しています。なお、本プログラムでは全社に対し定期的なアンケートを実施、会社・受講者双方がより良いものになろうと意思疎通を図っています。

後者の階層毎の研修につきましては、従来は昇格者を対象として「マネジメントスキル」「チーム貢献」といったテーマで外部研修会に参加しておりましたが、今後は、組織人としての教養・素養レベル向上のため、全職階の者が1年の内に何らかの研修（講演会・集合研修・Eラーニング等）を受けられるよう計画しています。特に、多様性を重んじそれを受け入れ成果に繋げていくためのポイントとなる、あらゆる世代・あらゆる背景を持つ部下の指導・育成ができる「強い管理職」をつくることを階層別研修の要と定め、課長・マネジャー向けの集合研修を実施しています。チームビルドに関するマインド・スキル向上トレーニングが主たる目標となっておりますが、部門を超えた課長層の交流を通して、組織として横の連携を意識・強化できるようにすることに重点をおいています。

#### 指標及び目標

当社では上記戦略について指標を用いた目標管理を行っておりません。

### 3【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した、事業の状況、経理の状況に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（2023年6月27日）現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)法的規制等について

当社グループは行政官庁の認定を受け、卸売市場法及び地方公共団体の条例に基づき、生産者団体等から青果物（野菜・果実等）の販売を委託され、市場内の仲卸及び売買参加者等に対し同商品の販売を行っております。卸売市場法においては、公正かつ効率的な取引原則の基に取引の方法が規定されており、差別的取扱いの禁止、販売相手先の制限等の規制を受けております。万が一こうした規定に抵触するような場合には、当社グループの営業活動に制約を受ける可能性があります。

なお、2009年4月より卸売手数料が自由化されておりますが、当社グループは従前どおりの手数料率を継続しております。但し将来的には当該自由化の流れが、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

#### (2)気象要因等による影響

当社グループは青果物及びその加工品の卸売を行っているため、国内産地及び輸入品生産国（アメリカ・オセアニア・東南アジア他）ならびに国内消費地の気象要因により、流通量・価格等においてその影響を受ける可能性があります。また、感染症防止のための外出自粛や外食産業等の休業による青果物取引の減少によって業績に影響を受ける可能性もあります。

#### (3)為替レートの変動による影響

青果物輸入取引における現地通貨建の項目について、為替リスクの変動による影響を最小限にとどめるため、必要に応じて為替予約取引等を利用しておりますが、そのリスクを完全に回避するものではなく、従って当該輸入商品の仕入価額及び当該債務の決済金額について、為替レートの変動による影響を受ける可能性があります。

### 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績等の概要

##### 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に緩和されていく中、社会経済活動が正常化に向けて進み、景気は緩やかな回復の兆しが見られました。しかしながら、ウクライナ情勢に起因したエネルギー・資源価格の高騰や円安進行による物価上昇など事業を取り巻く環境は引き続き厳しく、先行きが不透明な状況で推移しました。

当業界におきましては、外食向けの需要が回復の兆しが見られる一方、物価上昇による消費マインドの低下懸念や光熱費をはじめとするコスト増加の影響など厳しい経営環境下に置かれました。

このような状況のもと当社グループは、全国産地の商流と物流の調整機能を担うべく大田市場のハブ化機能強化のための直送取引の増強や消費者ニーズの変化に対応した加工・業務取引の拡大など新規取引を推進し、物流の効率化にも引き続き取り組みました。その結果、売上高は前連結会計年度を92億14百万円上回る1,215億50百万円となりました。

利益面については、売上総利益は売上高の増加により、前連結会計年度を11億38百万円上回る158億42百万円となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されたことによる営業活動の回復により、販売費及び一般管理費が前連結会計年度を上回る結果となったことにより、営業利益は前連結会計年度を45百万円上回る20億63百万円となりました。経常利益は、不動産賃貸収入の減少等により前連結会計年度を77百万円下回る29億66百万円となりました。特別損益におきましては、2011年3月発生の東日本大震災に伴う福島第1原子力発電所事故による当社グループへの損害に対する東京電力からの受取補償金が計上されたものの、段階取得による差益が計上された前連結会計年度を1億14百万円下回る41百万円の利益となりました。これらの結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度を28百万円下回る22億38百万円となりました。

セグメントの業績は、次の通りであります。

##### 「果実事業」

前連結会計年度末より連結会社が1社増加したため、売上高は前年同期比104%の585億52百万円、営業利益は単価の高値基調が継続しており、利益率が上昇して前年同期比108%の31億96百万円となりました。

##### 「野菜事業」

果実事業と同様に連結会社が1社増加したため、売上高は前年同期比112%の611億1百万円、営業利益は夏場の馬鈴薯について天候不良による品傷み、品質劣化により前年同期比105%の50億73百万円にとどまりました。

##### 「その他事業」

イチゴ資材が順調に推移し、また外食向けの資材がコロナから回復したことにより、売上高は前年同期比112%の18億97百万円、営業利益は売上増に加え、仕入単価の値上げを販売価格にタイムリーに転嫁できたことにより、前年同期比187%の36百万円となりました。

#### 財政状態の状況

当連結会計年度末の総資産は前連結会計年度末に比べて18億11百万円増の503億49百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて10億30百万円増の290億53百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加したことなどによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて7億81百万円増の212億95百万円となりました。これは主に、投資有価証券が増加したことなどによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億64百万円減の103億99百万円となりました。これは主に短期借入金及び長期借入金が増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて19億76百万円増加し、399億49百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益の計上によるものであります。この結果、自己資本は395億28百万円となり、自己資本比率は79%となりました。

#### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ、13億52百万円の減少となり、150億円の残高となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の計上により増加した一方、有形固定資産や投資有価証券の取得によって減少したこと等によるものであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、30億68百万円の増加となりました（前連結会計年度は33億93百万円の増加）。これは主に、税金等調整前当期純利益の計上や未払金が増加した一方、その他流動資産が増加したことなどによるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、39億12百万円の減少となりました（前連結会計年度は29億61百万円の減少）。これは主に、定期預金の預入や有形固定資産や投資有価証券の取得をしたことによるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、5億8百万円の減少となりました（前連結会計年度は2億80百万円の減少）。これは主に、長期借入金の返済並びに配当金の支払いを行ったことなどによるものであります。

#### 生産、受注及び販売の実績

##### （仕入実績）

当連結会計年度の仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	前年同期比(%)
果実事業(千円)	52,618,408	103.7
野菜事業(千円)	51,401,171	113.2
報告セグメント計(千円)	104,019,579	108.2
その他事業(千円)	1,726,414	111.3
合計(千円)	105,745,994	108.3

##### （販売実績）

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	前年同期比(%)
果実事業(千円)	58,552,068	104.2

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	前年同期比(%)
野菜事業(千円)	61,101,246	112.3
報告セグメント計(千円)	119,653,314	108.2
その他事業(千円)	1,897,442	111.5
合計(千円)	121,550,757	108.2

(注)最近2連結会計年度における売上の相手先について、全売上高の10%以上の相手先はありません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は以下の通りであります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(2023年6月27日)現在において当社グループが判断したものであります。

経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

経営者の視点による経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容については、「第2 事業の状況 4. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 業績等の概要」に記載のとおりであります。

経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 3. 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報

(キャッシュ・フローの状況)

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況については、「第2 事業の状況 4. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 業績等の概要」に記載のとおりであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。その作成には、経営者による会計方針の採用や、資産・負債及び収益・費用の計上及び開示に影響を与える見積りを必要とします。経営者はこれらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は見積り項目特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、当社ビジネスの性質上、新型コロナウイルス感染症の影響による外食・業務加工向け取引の落ち込みを所謂「巣籠もり需要」による量販店での青果物の需要増によってカバーする形となっており、業績への影響は限定的であることから、新型コロナウイルス感染症による会計上の見積りへの重要な影響はないものとみております。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

(重要な資本的支出の予定)

卸売場の面積拡大に対する支出等を予定しております。

(資金の調達源泉)

内部留保資金を予定しております。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

(注) 金額には消費税等を含んでおりません。

##### (1)提出会社

当社の当連結会計年度の設備投資額は、885,484千円であり、このうち主なものは次のとおりであります。

所在地	セグメントの名称	設備の内容	設備投資額(千円)
東京都大田区	果実事業・野菜事業・ 全社(共通)	青果棟2層化第3工区(注)1	476,728
		自社利用ソフトウェア(注)2	196,173
		A K Sビル内装他更新工事(注)3	62,650

- (注) 1. 卸売場の面積拡大に対する投資であります。  
2. 取引システムの移行・更新に対する投資であります。  
3. 賃貸用不動産の改装に対する投資であります。

##### (2)国内子会社

連結子会社の当連結会計年度の設備投資額は、226,199千円であり、このうち主なものは次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	設備投資額(千円)
大田市場ロジスティクスセンター株式会社	東京都大田区	その他事業	低温荷置場空調機器	169,000
東一川崎中央青果株式会社	神奈川県川崎市宮前区	果実事業・野菜事業・ 全社(共通)	クランプフォークリフト	5,875
			ビニールテント	4,350

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1)提出会社

2023年3月31日現在

所在地	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数(人) (注2)
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地(面積㎡)	リース資産(有形)	その他(注1)	合計	
東京都大田区	全社(共通)	事務所	175,328	4,877	- (-)	2,795	34,984	217,986	275 (17)
"	果実事業 野菜事業	卸売場	1,172,114	392,923	- (-)	3,663	82,661	1,651,363	246 (-)
"	その他	賃貸施設	2,936	-	295,569 (1,188)	-	-	298	- (-)
東京都昭島市	その他	賃貸用土地	-	-	1,166,395 (32,914)	-	-	1,166,395	- (-)
東京都千代田区他	その他	賃貸ビル	2,258,676	9,097	1,222,302 (5,649)	-	7,563	3,497,670	- (-)



(2)国内子会社

2023年3月31日現在

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人) (注2)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産 (有形)	その他 (注1)	合計	
東一川崎 中央青果 株式会社	神奈川県 川崎市 宮前区	果実事業 野菜事業 全社(共通)	事務所 卸売場他	1,244,461	15,897	27,135 (1,005)	-	9,644	1,297,139	111 (15)
東京青果 貿易 株式会社	東京都 大田区	果実事業	事務所	112	-	- (-)	-	2,842	2,955	25 (1)
東光商事 株式会社	東京都 大田区 青森県 弘前市	その他事業	事務所 倉庫他	37,910	3,840	133,173 (7,809)	-	1,014	175,939	13 (1)
東一神田青 果株式会社	東京都 大田区他	果実事業 野菜事業 全社(共通)	事務所 卸売場他	51,865	2,205	421,060 (1,301)	-	12,139	487,271	69 (-)
大田市場口 ジスティク センター 株式会社	東京都 大田区	全社(共通)	荷捌施設他	2,010,228	0	- (-)	-	0	2,010,228	- (-)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品の合計額であります。

2. 従業員数の( )は、臨時雇用者を外数で記載しております。

3. リース契約による主な賃借設備(連結貸借対照表に計上しているものは除く)はありません。

3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	38,240,000
計	38,240,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2023年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,560,000	同 左	非上場	単元株式数 100株
計	9,560,000	同 左	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
1967年7月1日	3,600	9,560	180,000	478,000	1,505	1,505

(注) 東京丸一青果株式会社との合併  
合併比率 1 : 1

#### (5)【所有者別状況】

2023年3月31日現在

区分	株 式 の 状 況 (1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	合計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	16	-	64	-	-	762	842	-
所有株式数 (単元)	-	13,436	-	49,012	-	-	32,890	95,338	26,200
所有株式数の 割合(%)	-	14,093	-	51,408	-	-	34,498	100.0	-

( 6 ) 【大株主の状況】

2023年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
東京促成青果株式会社	東京都中央区築地 6 - 2 3 - 7	1,347	14.0
東京青果従業員持株会	東京都大田区東海 3 - 2 - 1	1,018	10.6
株式会社サカタのタネ	神奈川県横浜市都筑区仲町台 2 - 7 - 1	795	8.3
川田一光	東京都品川区	483	5.0
オーケー株式会社	神奈川県横浜市西区みなとみらい 6 - 3 - 6	446	4.6
株式会社大田花き	東京都大田区東海 2 - 2 - 1	381	3.9
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町 1 - 5 - 5	365	3.8
東京多摩青果株式会社	東京都国立市谷保 6 - 2 - 1	300	3.1
東京千住青果株式会社	東京都足立区入谷 6 - 3 - 1	250	2.6
興産信用金庫	東京都千代田区神田紺屋町 4 1	203	2.1
計	-	5,592	58.5

( 7 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年 3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,533,800	95,338	-
単元未満株式	普通株式 26,200	-	-
発行済株式総数	9,560,000	-	-
総株主の議決権	-	95,338	-

【自己株式等】

2023年 3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

## 3【配当政策】

当社は、株主への利益還元を重要な課題として事業の経営にあたってまいりました。当社の配当は、今後の事業展開を勘案しながら、安定的、継続的に普通配当を行い、記念すべき節目には記念配当を行うことを基本方針としております。

当社は、年1回の期末配当を行うことを基本方針としており、配当の決定機関は株主総会であります。

当期の配当につきましては、上記基本方針に基づき1株当たり25円の普通配当に加え、当社の総資産が400億円を突破しましたことを記念して1株当たり5円の特別配当を実施することを決定いたしました。この結果、当期の配当性向は14.58%となりました。

内部留保資金につきましては、取引自由化に伴う競争激化に対処するための取引増大策、施設の建設、新分野への事業投資に充当する予定であり、営業活動に効率良く活用して事業の拡大に努めてまいります。

なお、当期に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2023年6月6日 定時株主総会決議	286,800	30.00

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

#### コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、中央卸売市場における青果物の卸売という公共性の高い業務を行っており、卸売市場法等の法令に基づき、財務の安全性を確保し、かつ公正な取引を行うことが求められています。このためコーポレート・ガバナンスを重要な課題と認識しております。

#### 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

##### (ア) 企業統治体制の概要

当社の経営上の機関制度につきましては、経営方針等の重要事項に関する意思決定機関及び業務執行の監督機関として取締役会を原則3ヵ月に一回及び適宜開催し、業務執行機関として代表取締役、監査機関として監査役といった会社法上で規定されている株式会社の機関制度を基本としております。合わせて、会長・社長・専務・常務・常勤監査役で構成される経営会議(原則月一回開催)や取締役と常勤監査役で構成される役員会(原則週一回開催)といった社長の諮問機関を置くことで、経営効率向上と意思決定の適正化を図っております。

##### (イ) 当該企業統治の体制を採用する理由

当社は上記のとおり、当社取締役会の監督機能の向上を図り、経営の効率性を高め当社グループのさらなる企業価値の向上を目指すことを目的として、コーポレート・ガバナンス体制をより一層充実させるため、本体制を採用致しました。

#### 企業統治に関するその他の事項

##### (ア) 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムの整備状況につきましては、業務分掌規程及び職務権限規程において業務執行の役割と権限を明確にし、稟議取扱規程等により適正に業務がなされるような体制を整備しております。

また、役職員の法令違反行為の早期発見と是正並びに自浄作用の向上を図る目的で、内部通報制度の整備と運用を行っております。

##### (イ) リスク管理体制の整備の状況

当社は、「コンプライアンス基本規程」及び「内部通報規程」を制定し、重大事案発生の未然防止を図ると共に、重大事案が発生した場合における当社の損害及び不利益を最小限にするための体制、対応を定めております。また、顧問弁護士等の専門家と適宜連携を行うことにより、リスクに対して迅速な対応ができる体制を整えております。

##### (ウ) 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社の業務の適正を確保するための体制整備につきましては、当社の取締役及び従業員が子会社の監査役に就任し、各子会社の取締役会等に出席することで、業務執行状況を監査しております。また、子会社の代表取締役等が当社の定例役員会に出席し、経営状況及び重要事項についての報告を行っております。

#### 役員報酬等の内容

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する報酬等の内容は以下のとおりであります。

取締役の報酬等 2 3 4 百万円

監査役の報酬等 3 4 百万円(うち社外監査役の報酬等5百万円)

合計 2 6 9 百万円

#### 取締役の定数

当社の取締役は22名以内とする旨を定款に定めております。

#### 取締役の選任の決議要件について

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

#### 取締役の解任決議の決議要件

当社は、取締役の解任決議は、議決権を行使できる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は定款に別段の定めがある場合を除き、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の特別決議が必要な場合の定足数の確保をより確実にするためのものであります。

#### 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項及び定款の定めに基づき、社外監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役が責任の原因となった職務執行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

#### 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しています。当該保険契約の被保険者の範囲は当社の全ての取締役及び監査役です。保険料は全額当社が負担しており、被保険者は負担しておりません。当該保険契約により、被保険者がその職務の執行に起因して損害賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や争訟費用等が補償されます。ただし、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行なった役員自身の損害等は補償対象外とすることにより、役員等の職務の執行の適正性が損なわれないように措置を講じています。

#### 株主総会決議事項を取締役会で決議できることとした事項

当社は、取締役会の決議をもって、取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の当社に対する損害賠償責任を、法令が定める範囲で免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が業務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できる環境を提供する目的で定めております。

( 2 ) 【 役員の状況】

役員一覧

男性14名 女性 - 名 ( 役員のうち女性の比率 - % )

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長	川田 一光	1951年 7月28日生	1975年 4月 株式会社富士銀行(現みずほ銀行)入行 1984年 7月 同行退社 1984年10月 東京青果貿易株式会社参与 1985年 5月 東京青果貿易株式会社常務取締役 1985年10月 当社入社経理部長 1988年 6月 常務取締役 1995年 3月 専務取締役 1998年 6月 代表取締役専務 1999年 5月 東京青果貿易(株) 代表取締役 1999年 6月 代表取締役社長 2009年12月 大田市場ロジスティクスセンター(株) 代表取締役社長 2013年 5月 (株)東京青果研修センター 代表取締役社長 2022年 6月 代表取締役会長兼社長 2023年 6月 代表取締役会長CEO(現任)	(注) 3	483
代表取締役 社長	川田 光太	1984年 3月25日生	2006年 4月 丸紅株式会社入社 2017年 2月 同社退社 2017年 4月 当社顧問 2017年 6月 取締役経営戦略室担当 東京青果貿易(株) 常務取締役 2018年 6月 常務取締役経営戦略室・秘書室・総務部・経理部・商品センター担当 2019年 6月 (株)大田花き 取締役(現任) 2021年 3月 常務取締役経営戦略室長兼務秘書室・総務部・経理部・商品センター担当 2021年 5月 東京青果貿易(株) 専務取締役 2021年 6月 専務取締役経営戦略室長兼務秘書室・総務部・経理部・情報システム部担当 2022年 1月 東一神田青果株式会社専務取締役 2023年 5月 東京青果貿易(株) 代表取締役(現任) (株)東京青果研修センター 代表取締役社長(現任) 2023年 6月 代表取締役社長COO(現任)、大田市場ロジスティクスセンター(株) 代表取締役社長(現任)、	(注) 3	17
専務取締役	平田 充	1957年 5月27日生	1980年 4月 全国農業協同組合連合会入会 2003年 3月 同会退会 2003年 8月 当社入社 2010年 3月 果実第 2 事業部長 2016年 6月 取締役果実第 2 事業部長 2018年 6月 常務取締役果実事業本部長・輸出室担当 2023年 5月 東光商事(株) 代表取締役社長(現任)、 東光鳥卵(有) 取締役社長(現任) 2023年 6月 専務取締役果実・野菜部門・営業管理部・輸出室・商品センター担当(現任)	(注) 3	19
常務取締役 営業開発第 1 部長	村野 伸一郎	1967年 1月 1 日生	1991年 4月 当社入社 2011年 2月 野菜第 1 事業部長 2013年 6月 取締役野菜第 1 事業部長 2014年 2月 取締役野菜第 3 事業部長 2018年 6月 常務取締役 営業開発第 1 部・営業開発第 2 部担当(現任) 2021年 3月 常務取締役営業開発第 1 部長・営業開発第 2 部長兼務 2023年 4月 常務取締役営業開発第 1 部長・営業開発第 2 部担当(現任)	(注) 3	9
常務取締役 野菜事業本部長	戸塚 幹夫	1960年 7月 5 日生	1983年 4月 当社入社 2014年 2月 野菜第 1 事業部長 2014年 6月 取締役野菜第 1 事業部長 2018年 6月 常務取締役野菜事業本部長(現任)	(注) 3	8

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役 果実事業本部長	高羽 馨	1962年5月31日生	1986年4月 当社入社 2016年6月 果実第3事業部長 2020年6月 取締役果実第3事業部長 2022年4月 取締役果実第4事業部長 2023年6月 常務取締役果実事業本部長・輸出室担当 (現任)	(注)3	7
常務取締役	井崎 俊彦	1956年5月29日生	1980年4月 三菱商事株式会社入社 2010年6月 株式会社マルイチ産商代表取締役社長 2015年5月 三菱商事株式会社退社 2015年6月 大日本明治製糖株式会社代表取締役社長 2019年5月 同社退社 2019年6月 当社常勤監査役 2023年6月 常務取締役秘書室・総務部・経理部・情報システム部担当(現任)	(注)3	0
取締役 野菜第1事業部長	富田 雅之	1970年11月5日生	1993年4月 当社入社 2017年4月 野菜第5事業部長 2018年6月 取締役野菜第5事業部長 2021年3月 取締役野菜第1事業部長(現任)	(注)3	10
取締役 総務部長	犬飼 滋公	1963年2月20日生	1985年4月 (株)埼玉銀行(現(株)りそな銀行)入行 1990年10月 住友ビジネスコンサルティング(株)(現(株)日本総合研究所)入社 2000年4月 当社入社 2015年3月 総務部長 2021年6月 取締役総務部長(現任)	(注)3	7
取締役 商品センター部長	庄内 弘志	1969年5月1日生	1992年4月 当社入社 2016年4月 商品センター部長 2023年6月 取締役商品センター部長(現任)	(注)3	8
取締役 果実第4事業部長	福川 祥広	1968年10月21日生	1993年4月 当社入社 2011年6月 果実第1事業部長 2018年6月 取締役果実第1事業部長 2023年6月 取締役果実第4事業部長(現任)	(注)3	8
非常勤 専務取締役	泉 英和	1955年8月16日生	1979年4月 当社入社 2011年6月 果実第3事業部長 2013年6月 取締役果実第3事業部長 2016年4月 常務取締役果実事業本部長 2018年5月 東光商事(株)代表取締役社長、東光鳥卵(有) 取締役社長 2018年6月 専務取締役果実・野菜部門・営業管理部・ 輸出室・営業改善担当 専務取締役商品センター担当 2021年6月 営業管理部長兼務 2022年1月 東一神田青果株式会社代表取締役社長(現任) 2023年5月 東一川崎中央青果株式会社代表取締役社長(現任) 2023年6月 非常勤専務取締役(現任)	(注)3	24
常勤監査役	菅原 隆志	1953年12月16日生	1978年10月 新光監査法人(1988年中央監査法人と合併)入所 1982年3月 公認会計士登録 2007年7月 新日本監査法人(現:EY新日本有限責任監査法人)入所 シニアパートナー 2016年6月 同法人退職 2016年7月 当社監査顧問 2017年6月 常勤監査役(現任) 2017年12月 (株)キャリアデザインセンター 監査役 2021年12月 同社取締役(監査等委員)(現任)	(注)4	1
監査役	萬場 友章	1948年4月14日生	1976年4月 弁護士開業 1998年6月 当社監査役(現任)	(注)5	-
計					606

(注)1. 監査役 萬場 友章は、社外監査役であります。

2. 代表取締役社長川田光太は、代表取締役会長川田一光の長男であります。

3. 2023年3月期に係る定時株主総会の終結時から2025年3月期に係る定時株主総会の終結時までであります。

4. 2021年3月期に係る定時株主総会の終結時から2025年3月期に係る定時株主総会の終結時までであります。

5. 2020年3月期に係る定時株主総会の終結時から2024年3月期に係る定時株主総会の終結時までであります。



#### 社外役員の状況

当社の社外監査役である萬場 友章は、当社との間に特別な利害関係はありません。

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

#### (3)【監査の状況】

##### 監査役監査の状況

当社における監査役監査は、常勤監査役1名と社外監査役1名の2名体制で実施しております。監査役は、取締役会や経営に係る会議に参加し、意思決定に係る書類を査閲することにより取締役の職務の執行を監査しております。

また、監査役は監査法人及び業務監査室と適宜情報を交換し相互に連携を行い、適切な業務執行の確保に努めております。なお、常勤監査役菅原隆志は、公認会計士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

当社は監査役会非設置会社であるため、定例の監査役会は開催しておりません。監査役は取締役会や経営に係る会議に出席することで取締役の職務の執行を監査しております。個々の監査役の取締役会への出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
菅原 隆志	8回	8回
萬場 友章	8回	8回

監査役の具体的な検討内容として、取締役の職務の執行が適正になされているか、並びに取締役会決議内容について検討いたしました。

また、常勤監査役の活動として、取締役会への出席に加え、定例の役員会、経営会議並びに業務監査委員会やその他の重要会議へ出席し、適宜検討・報告事項に関する説明を求めています。さらに、監査法人から、監査計画や監査結果の説明を受けております。

##### 内部監査の状況

内部監査につきましては、社長直属の業務監査室（専従スタッフ5名）が中心となり、業務監査規程に基づいて定期的に内部監査を実施しております。

また、業務監査室は同規程により社長の諮問機関として設置された業務監査委員会を年に4回開催し、関係取締役及び監査役と内部監査報告に基づく業務改善の方策について審議すると共に、業務改善等に関する情報を共有しております。

監査法人は年1回、業務監査室に対して内部監査の状況についてヒアリングを行っております。

##### 会計監査の状況

###### a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

###### b. 継続監査期間

55年間

###### c. 業務を執行した公認会計士

鳥羽 正浩

吉川 高史

###### d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、その他11名であります。なお、その他は公認会計士試験合格者等であります。

###### e. 監査法人の選定方針と理由

当社は、監査法人の選定に関する方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては経歴や当社との関係を踏まえて、総合的に判断しております。

###### f. 監査役による監査法人の評価

当社の監査役は監査法人に対して評価を行っておりません。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	30,758	-	34,500	-
連結子会社	-	-	-	-
計	30,758	-	34,500	-

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬(a.を除く)  
該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容  
該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針  
該当事項はありませんが、監査日程等を勘案した上で決定しております。

(4) 【役員の報酬等】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

なお、役員報酬の内容につきましては、「4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」に記載しております。

(5) 【株式の保有状況】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応するために、監査法人や専門的情報を有する団体等が主催する研修に参加し、連結財務諸表等の適正性の確保に取り組んでおります。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,750,945	22,934,263
受取手形	49,245	66,428
売掛金	5,319,676	5,287,150
有価証券	328,803	-
商品	189,700	227,899
貯蔵品	4,634	5,326
その他	407,188	562,382
貸倒引当金	26,811	29,735
流動資産合計	28,023,382	29,053,715
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2 6,837,835	2 6,953,636
機械装置及び運搬具(純額)	2 365,510	2 428,843
工具、器具及び備品(純額)	2 119,115	2 150,852
土地	3 2,914,159	3 2,914,159
リース資産(純額)	9,218	6,459
建設仮勘定	6,360	-
有形固定資産合計	1 10,252,200	1 10,453,950
無形固定資産		
ソフトウェア	2 611,236	2 560,255
リース資産	610	412
ソフトウェア仮勘定	47,992	25,212
のれん	671,938	638,342
その他	705,813	672,830
無形固定資産合計	2,037,591	1,897,052
投資その他の資産		
投資有価証券	4 7,387,549	4 8,080,305
長期貸付金	5,937	2,888
繰延税金資産	133,355	147,097
差入保証金	345,504	357,112
長期預金	3 26,003	3 26,003
その他	426,402	429,642
貸倒引当金	100,806	98,669
投資その他の資産合計	8,223,947	8,944,379
固定資産合計	20,513,738	21,295,382
資産合計	48,537,121	50,349,097

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 2,107,562	3 2,194,085
受託販売未払金	3 1,501,521	3 1,412,494
短期借入金	220,000	130,000
リース債務	3,071	2,670
未払金	3 788,212	3 1,063,385
未払法人税等	468,644	506,293
未払消費税等	210,690	126,408
賞与引当金	364,256	328,232
役員賞与引当金	38,785	32,718
資産除去債務	-	34,598
その他	340,180	336,982
流動負債合計	6,042,924	6,167,869
固定負債		
長期借入金	585,000	455,000
リース債務	7,029	4,359
繰延税金負債	418,421	248,220
役員退職慰労引当金	560,046	587,109
退職給付に係る負債	1,941,345	1,957,818
資産除去債務	71,154	39,862
その他	938,934	939,619
固定負債合計	4,521,932	4,231,989
負債合計	10,564,856	10,399,858
純資産の部		
株主資本		
資本金	478,000	478,000
利益剰余金	35,702,658	37,654,100
株主資本合計	36,180,658	38,132,100
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,379,812	1,396,610
その他の包括利益累計額合計	1,379,812	1,396,610
非支配株主持分	411,793	420,527
純資産合計	37,972,264	39,949,238
負債純資産合計	48,537,121	50,349,097

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	112,336,656	121,550,757
売上原価	1 97,632,165	1 105,707,796
売上総利益	14,704,491	15,842,960
販売費及び一般管理費		
完納奨励金	1,906,929	2,081,110
従業員給料	4,062,008	4,335,105
従業員賞与	640,662	673,562
福利厚生費	878,024	929,953
賞与引当金繰入額	328,256	292,232
役員賞与引当金繰入額	38,785	32,718
退職給付費用	133,626	141,238
役員退職慰労引当金繰入額	53,960	53,626
貸倒引当金繰入額	7,691	3,717
減価償却費	531,298	545,973
その他	4,105,786	4,690,401
販売費及び一般管理費合計	12,687,030	13,779,639
営業利益	2,017,461	2,063,320
営業外収益		
受取利息	14,994	19,455
受取配当金	155,927	161,826
不動産賃貸料	1,436,971	1,405,907
デリバティブ評価益	56,550	-
その他	176,324	175,388
営業外収益合計	1,840,767	1,762,578
営業外費用		
支払利息	3,249	2,843
不動産賃貸費用	798,149	800,905
その他	12,681	55,443
営業外費用合計	814,080	859,192
経常利益	3,044,147	2,966,706
特別利益		
段階取得に係る差益	121,240	-
受取補償金	2 34,560	2 41,363
特別利益合計	155,800	41,363

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
税金等調整前当期純利益	3,199,948	3,008,070
法人税、住民税及び事業税	939,698	951,995
法人税等調整額	6,533	191,183
法人税等合計	933,165	760,812
当期純利益	2,266,783	2,247,258
非支配株主に帰属する当期純利益	-	9,016
親会社株主に帰属する当期純利益	2,266,783	2,238,242

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益	2,266,783	2,247,258
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	119,550	16,798
その他の包括利益合計	1, 2 119,550	1, 2 16,798
包括利益	2,147,232	2,264,056
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,147,232	2,255,040
非支配株主に係る包括利益	-	9,016



【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			その他の包括利益累計額
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金
当期首残高	478,000	33,674,875	34,152,875	1,499,362
当期変動額				
剰余金の配当		239,000	239,000	
親会社株主に帰属する当期純利益		2,266,783	2,266,783	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				119,550
当期変動額合計	-	2,027,783	2,027,783	119,550
当期末残高	478,000	35,702,658	36,180,658	1,379,812

	その他の包括利益累計額	非支配株主持分	純資産合計
	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,499,362	-	35,652,237
当期変動額			
剰余金の配当			239,000
親会社株主に帰属する当期純利益			2,266,783
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	119,550	411,793	292,242
当期変動額合計	119,550	411,793	2,320,026
当期末残高	1,379,812	411,793	37,972,264

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			その他の包括利益累計額
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金
当期首残高	478,000	35,702,658	36,180,658	1,379,812
当期変動額				
剰余金の配当		286,800	286,800	
親会社株主に帰属する当期純利益		2,238,242	2,238,242	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				16,798
当期変動額合計	-	1,951,442	1,951,442	16,798
当期末残高	478,000	37,654,100	38,132,100	1,396,610

	その他の包括利益累計額	非支配株主持分	純資産合計
	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,379,812	411,793	37,972,264
当期変動額			
剰余金の配当			286,800
親会社株主に帰属する当期純利益			2,238,242
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,798	8,734	25,532
当期変動額合計	16,798	8,734	1,976,974
当期末残高	1,396,610	420,527	39,949,238

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,199,948	3,008,070
減価償却費	941,798	994,654
のれん償却額	-	33,596
賞与引当金の増減額（は減少）	4,703	36,023
役員賞与引当金の増減額（は減少）	10,606	6,067
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	17,109	16,472
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	32,215	27,063
受取利息及び受取配当金	170,922	181,282
支払利息	3,249	2,843
デリバティブ評価損益（は益）	56,550	-
受取補償金	34,560	41,363
段階取得に係る差損益（は益）	121,240	-
売上債権の増減額（は増加）	320,540	15,342
棚卸資産の増減額（は増加）	38,688	38,891
貸倒引当金の増減額（は減少）	5,139	787
仕入債務の増減額（は減少）	230,072	2,503
未払金の増減額（は減少）	5,404	233,047
その他の流動資産の増減額（は増加）	75,956	150,971
その他の流動負債の増減額（は減少）	42,671	114,133
その他	19,936	6,494
小計	4,310,467	3,754,147
利息及び配当金の受取額	184,297	194,734
利息の支払額	3,207	2,761
補償金の受取額	34,560	41,363
法人税等の支払額	1,132,514	918,999
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,393,604	3,068,485

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	5,000,000	8,568,000
定期預金の払戻による収入	3,800,000	6,032,000
貸付けによる支出	5,930	1,040
貸付金の回収による収入	4,519	4,467
投資有価証券の取得による支出	1,043,509	1,362,883
有価証券の償還による収入	920,123	330,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 1,040,346	-
有形固定資産の取得による支出	777,479	857,757
投資有価証券の償還による収入	400,007	701,915
投資有価証券の売却による収入	-	12,292
有形固定資産の売却による収入	1,016	-
無形固定資産の取得による支出	210,136	207,659
長期預り保証金の受入による収入	43,867	30,140
差入保証金の回収による収入	16,511	155
投資その他の資産の増減額（ は増加）	4,897	725
その他	64,929	25,085
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,961,183	3,912,181
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	90,000	220,000
長期借入金の返済による支出	130,000	440,000
配当金の支払額	238,112	285,894
非支配株主への配当金の支払額	-	282
ファイナンス・リース債務の返済による支出	2,834	2,809
財務活動によるキャッシュ・フロー	280,947	508,985
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	151,473	1,352,682
現金及び現金同等物の期首残高	16,201,971	16,353,445
現金及び現金同等物の期末残高	1 16,353,445	1 15,000,763

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 5社

連結子会社の名称

東一川崎中央青果株式会社

東京青果貿易株式会社

東光商事株式会社

東一神田青果株式会社

大田市場ロジスティクスセンター株式会社

(2) 主要な非連結子会社の名称

東光鳥卵有限会社

株式会社東京青果研修センター

(連結除外理由)

非連結子会社の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等の合計額はいずれも極めて僅少であり、これらの子会社を連結の範囲から除いても、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であるため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 1社

会社の名称

東一宇都宮青果株式会社

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称

東光鳥卵有限会社

株式会社東京青果研修センター

大田市場石油株式会社

有限会社大東京商事

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用していない会社は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金(それぞれ持分に見合う額)等の合計額がいずれも極めて僅少であり、これらの子会社及び関連会社を持分法の適用範囲から除いても、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であるため、持分法を適用しておりません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度は当社の事業年度と同一であります。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

…時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)によっております。なお、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。

市場価格のない株式等

…総平均法に基づく原価法によっております。

(ロ) デリバティブ

時価法を採用しております。

(ハ) 棚卸資産

商品 先入先出法による原価法によっております。

貯蔵品 移動平均法による原価法によっております。

なお、棚卸資産の貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物及び構築物：

提出会社

...定額法を採用しております。

連結子会社

...1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

上記以外の有形固定資産：定率法を採用しております。

耐用年数及び残存価額は主として法人税法の定めと同一の基準によっております。

(ロ) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(ハ) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(ニ) 投資その他の資産

長期前払費用...定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率を勘案した貸倒損失の将来発生見込率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

(ハ) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支払に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

(ニ) 役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度未要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

(収益の計上基準)

卸売業

卸売業のうち、市場内に集荷される青果物等の販売については、市場内で顧客に青果物等を引き渡した時点で、市場に集荷されない青果物等の販売については、生産者が顧客に青果物等を出荷した時点で収益を認識しております。なお、青果物等の販売のうち、当社及び連結子会社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する青果物等と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

卸売業以外

卸売業以外での取引にかかる青果物等の販売については、顧客に青果物等を引き渡した時点で収益を認識しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

繰延税金資産(純額) 101,123千円

(繰延税金負債と相殺前の金額は、1,119,139千円であります。)

(2) 連結財務諸表利用者の理解に資するその他の情報

算出方法

将来減算一時差異に対して、将来の収益力に基づく課税所得及びタックス・プランニングに基づき、繰延税金資産の回収可能性を判断し、スケジューリング可能な将来減算一時差異に対して繰延税金資産を計上しております。課税所得の見積りは経営計画を基礎としております。

主要な仮定

課税所得の見積りの基礎となる経営計画における主要な仮定は、過年度販売実績に基づく予想販売数量及び予想販売単価であり、翌連結会計年度以降の当社の経営環境に著しい変化を見込んでおりません。翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

青果物市場取引は天候によって影響を受けるため、主要な仮定である過年度販売実績に基づく予想販売数量及び予想販売単価は、見積りの不確実性が高く、経営計画の前提となっている販売数量や販売単価が大幅に減少又は下落した場合は、繰延税金資産の取崩が発生する可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	9,492,327千円	9,871,745千円

2 当連結会計年度において、国庫等補助金の受入れにより、機械及び装置について20,000千円の圧縮記帳を行いました。

なお、固定資産に係る国庫等補助金の受入れによる圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
建物	109,615千円	109,615千円
機械及び装置	59,584	79,584
器具備品	25,702	25,702
ソフトウェア	1,909	1,909

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
土地	406,915千円	15,194千円
長期預金	26,003	26,003
計	432,918	41,197

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
支払手形及び買掛金	350千円	302千円
受託販売未払金	9,005	5,074
未払金	1,295	752
計	10,723	6,130

4 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
投資有価証券(株式)	453,969千円	502,109千円
計	453,969	502,109

#### 5 保証債務

次の債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
大田市場事務棟空調設備共同利用団体 (リース債務)	403,782千円	304,974千円
計	403,782	304,974

(連結損益計算書関係)

1 期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、売上原価に含まれている棚卸資産評価損は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
	796千円	1,141千円

2 東日本大震災に伴う福島第1原子力発電所事故による政府の食品出荷制限指示等によって発生した当社グループへの損害に対する東京電力株式会社からの損害賠償金であります。



(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	172,450千円	35,054千円
組替調整額	-	11,086
税効果調整前合計	172,450	23,967
税効果額	52,900	7,169
その他包括利益合計	119,550	16,798

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	172,450千円	23,967千円
税効果額	52,900	7,169
税効果調整後	119,550	16,798
その他包括利益合計		
税効果調整前	172,450千円	23,967千円
税効果額	52,900	7,169
税効果調整後	119,550	16,798

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	9,560	-	-	9,560
合計	9,560	-	-	9,560

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2021年6月8日 定時株主総会	普通株式	239,000	25.00円	2021年3月31日	2021年6月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2022年6月7日 定時株主総会	普通株式	286,800	利益剰余金	30.00円	2022年3月31日	2022年6月8日

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	9,560	-	-	9,560
合計	9,560	-	-	9,560

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2022年6月7日 定時株主総会	普通株式	286,800	30.00円	2022年3月31日	2022年6月8日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2023年6月6日 定時株主総会	普通株式	286,800	利益剰余金	30.00円	2023年3月31日	2023年6月7日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
現金及び預金勘定	21,750,945千円	22,934,263千円
有価証券勘定	328,803	-
計	22,079,748	22,934,263
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	5,397,500	7,933,500
取得日から償還日までの期間が3ヶ月を超える債券等	328,803	-
現金及び現金同等物	16,353,445	15,000,763

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内容

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至2022年3月31日)

株式取得により新たに東一神田青果株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	1,799,772千円
固定資産	482,090
のれん	1,041,384
流動負債	430,039
固定負債	219,719
非支配株主持分	350,249
前期以前に取得済みの株式取得価額	2,000
段階取得に係る差益	121,240
株式の取得額	2,200,000
現金及び同等物	1,159,653
差引:取得のための支出	1,040,346

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

器具備品であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
1年内	81,833	82,791
1年超	235,910	160,105
合計	317,744	242,897

(貸主側)

1. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
1年内	-	333,264
1年超	-	110,419
合計	-	443,683

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については定期預金及び安全性の高い債券等に限定して運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びに金融商品に係るリスク管理体制

受取手形及び売掛金は、主に卸売代金債権であり、その大部分については、当社グループの卸売販売顧客である仲卸業者及び売買参加者が各々組織する組合が、その組合員である当該買受人の支払債務を保証のうえ代払を行なう仕組みである「代払制度」により、売掛金回収リスクの低減が図られております。組合の構成員以外の顧客については、信用状況を確認した上で取引を行なっております。

有価証券及び投資有価証券は、安全性の高い債券及び業務上関係のある企業の株式であり、上場株式については半期ごとに時価の把握を行なっております。

支払手形及び買掛金は、全て1年以内の支払期日となっております。長期借入金は、主に連結子会社における設備投資(荷捌施設等の建設)のために借り入れたものであり、償還日は最長で決算日後約4年であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額 (2)	時 価 (2)	差 額
有価証券	328,803	328,803	-
投資有価証券(3)			
その他有価証券	6,079,336	6,079,336	-
資 産 計	6,408,139	6,408,139	-
長期借入金(4)	715,000	714,730	269
負 債 計	715,000	714,730	269

(1) 「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。また、「受取手形」「売掛金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(2) 負債に計上されているものについては、で示しています。

(3) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度(千円)
非上場株式	1,308,213

(4) 長期借入金には1年以内返済予定長期借入金が含まれております。

当連結会計年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額 ( 2 )	時 価 ( 2 )	差 額
投資有価証券 ( 3 )			
其他有価証券	6,761,508	6,761,508	-
資 産 計	6,761,508	6,761,508	-
長期借入金 ( 4 )	585,000	584,654	345
負 債 計	585,000	584,654	345

- ( 1 ) 「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。また、「受取手形」「売掛金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
- ( 2 ) 負債に計上されているものについては、 で示しています。
- ( 3 ) 市場価格のない株式等は、「 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度 (千円)
非上場株式	1,318,797

- ( 4 ) 長期借入金には1年以内返済予定長期借入金が含まれております。

(注) 1. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (2022年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	21,743,699	-	-	-
受取手形	49,245	-	-	-
売掛金	5,319,676	-	-	-
有価証券				
其他有価証券のうち満期があるもの				
債券 (社債)	30,000	-	-	-
債券 (その他)	300,000	-	-	-
その他	-	-	-	-
投資有価証券				
其他有価証券のうち満期があるもの				
債券 (社債)	100,000	1,590,000	200,000	-
債券 (その他)	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合 計	27,542,620	1,590,000	200,000	-

当連結会計年度（2023年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	22,927,311	-	-	-
受取手形	66,428	-	-	-
売掛金	5,287,150	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの				
債券（社債）	-	650,000	600,000	1,900,000
債券（その他）	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合 計	28,280,891	650,000	600,000	1,900,000

（注）現金及び預金について現金は含まれておりません。

（注）2．短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2022年3月31日）

	1年以内 （千円）	1年超2年以内 （千円）	2年超3年以内 （千円）	3年超4年以内 （千円）	4年超5年以内 （千円）	5年超 （千円）
短期借入金	90,000	-	-	-	-	-
長期借入金	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	65,000

当連結会計年度（2023年3月31日）

	1年以内 （千円）	1年超2年以内 （千円）	2年超3年以内 （千円）	3年超4年以内 （千円）	4年超5年以内 （千円）	5年超 （千円）
短期借入金	-	-	-	-	-	-
長期借入金	130,000	130,000	130,000	130,000	65,000	-

### 3．金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。



(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品  
前連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
その他有価証券				
株式	-	-	-	-
国債・地方債等	-	-	-	-
社債	-	30,003	-	30,003
その他	-	298,800	-	298,800
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	3,578,180	-	-	3,578,180
国債・地方債等	-	-	-	-
社債	-	2,501,156	-	2,501,156
その他	-	-	-	-
資産計	3,578,180	2,829,959	-	6,408,139

当連結会計年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	3,640,903	-	-	3,640,903
国債・地方債等	-	-	-	-
社債	-	3,120,604	-	3,120,604
その他	-	-	-	-
資産計	3,640,903	3,120,604	-	6,761,508

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	714,730	-	714,730
負債計	-	714,730	-	714,730

当連結会計年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	584,654	-	584,654
負債計	-	584,654	-	584,654

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

上場株式、社債、及びその他債券は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。一方で、当社が保有している社債及びその他債券は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

長期借入金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債務ごとに、その将来キャッシュ・フローと、返済期日までの期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(2022年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

該当ありません。

2. その他有価証券

前連結会計年度(2022年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	3,196,847	1,144,838	2,052,009
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	938,522	936,899	1,622
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	4,135,369	2,081,737	2,053,631
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	381,333	441,124	59,791
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	1,592,636	1,598,970	6,333
	その他	298,800	300,000	1,200
	(3)その他	-	-	-
	小計	2,272,769	2,340,094	67,324
合計		6,408,139	4,421,832	1,986,307

(注) 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えない債券の内の「その他」には、組込デリバティブを区分して測定できない複合金融商品が含まれており、評価差額は損益に計上しております。

当連結会計年度（2023年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	3,259,122	1,145,040	2,114,082
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	130,428	130,000	428
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	3,389,550	1,275,040	2,114,510
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	381,780	442,473	60,692
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	2,990,176	3,032,520	42,343
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	3,371,957	3,474,993	103,036
合計		6,761,508	4,750,033	2,011,474

3. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当ありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	12,292	11,086	-

4. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当ありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当ありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

複合金融商品関連

前連結会計年度(2022年3月31日)

複合金融商品全体を時価評価し、「有価証券関係」に含めて記載しております。

当連結会計年度(2023年3月31日)

該当ありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(2022年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

該当ありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社の退職給付制度としては、確定給付型の制度として、会社が直接支給する退職一時金制度を有しております。

当社及び連結子会社の従業員の年齢構成、勤続年数には偏りがあり、数理計算結果に一定の高い水準の信頼性が得られないと判断したため、退職給付に関する会計基準（企業会計基準第26号 企業会計基準委員会 2012年5月17日）に基づき、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,738,990千円	1,941,345千円
退職給付費用	133,626	141,238
退職給付の支払額	116,517	124,766
子会社株式取得による増加	185,245	-
退職給付に係る負債の期末残高	1,941,345	1,957,818

(2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	1,941,345千円	1,957,818千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,941,345	1,957,818
退職給付に係る負債	1,941,345	1,957,818
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,941,345	1,957,818

(3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度133,626千円 当連結会計年度141,238千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	114,172千円	102,603千円
未払事業税	28,826	33,569
退職給付に係る負債	610,977	616,057
役員退職慰労引当金	173,004	178,920
その他有価証券評価差額金	20,013	31,192
貸倒引当金	37,185	38,002
ゴルフ会員権評価損	33,948	33,948
投資有価証券評価損	71,143	69,369
減損損失	616,379	611,072
繰越欠損金(注)	551,286	286,387
未実現利益	28,302	28,262
その他	109,954	104,391
繰延税金資産小計	2,395,193	2,133,777
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	551,286	286,387
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	904,246	728,250
評価性引当額小計	1,455,532	1,014,638
繰延税金資産合計	939,660	1,119,139
繰延税金負債		
買換資産圧縮積立金	258,286	251,497
収用等資産圧縮積立金	94,604	89,892
その他有価証券評価差額金	626,874	645,294
その他	17,951	233,577
繰延税金負債合計	997,716	1,220,262
繰延税金資産の純額	58,056	101,123

(注)税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金( )	261,628	103,473	-	-	-	186,184	551,286
評価性引当額	261,628	103,473	-	-	-	186,184	551,286
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

当連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金( )	103,473	-	-	-	-	182,913	286,387
評価性引当額	103,473	-	-	-	-	182,913	286,387
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

( )税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.9	1.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3	0.4
住民税均等割等	0.1	0.1
評価制引当額増減	1.1	14.7
のれん償却額	-	0.3
繰越欠損金の期限切れ	-	7.8
その他	1.0	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.2	25.3

(企業結合等関係)

(企業結合における暫定的な会計処理の確定)

2022年1月6日に東京神田青果株式会社(現 東一神田青果株式会社)の株式追加取得(みなし取得日 2022年3月31日)による企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行なっていましたが、当連結会計年度に確定しています。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当連結会計年度に含まれる比較情報において取得原価の配分額に重要な見直しが生じていることが反映されています。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額1,041,384千円は、会計処理の確定により369,445千円減少し、671,938千円となっています。のれんの減少は、契約関連無形資産の認識により、無形固定資産のその他へ658,000千円、繰延税金負債へ227,010千円、非支配株主持分へ61,544千円配分されたことによるものです。



(資産除去債務関係)

前連結会計年度(2022年3月31日)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

資産除去債務の金額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

グループ会社である大田市場ロジスティクスセンター株式会社は、東京都より定期借地権によって賃借している土地に荷捌施設を建設しており、退去の際には原状回復義務を負っておりますが、この施設は東京都卸売市場整備計画の一環として建設したものであり、中核的な拠点市場としての機能を十分に発揮し、品質管理の高度化及び物流の効率化を図るという東京都の目的に沿ったものであるため、その特殊性において施設の継続性が求められるものであります。したがって、土地の使用期限は実質的には明確でなく、施設の撤去ならびに退去時期を合理的に予想することができず、かつ原状回復義務の蓋然性や債務性は低いことから、資産除去債務は計上しておりません。

また、グループ会社である東一川崎中央青果株式会社は、川崎市より定期借地権によって賃借している土地に荷捌施設等を建設しており、退去の際には原状回復義務を負っておりますが、この施設は川崎市中央卸売市場北部市場中長期プラン基本計画の一環として建設したものであり、川崎市卸売市場機能の強化、効率的な市場運営、場内空き施設の利用促進による安心安全な食料品の安定供給という川崎市の目的に沿ったものであるため、その特殊性において施設の継続性が求められるものであります。したがって、土地の使用期限は実質的には明確でなく、施設の撤去ならびに退去時期を合理的に予想することができず、かつ原状回復義務の蓋然性や債務性は低いことから、資産除去債務は計上しておりません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

資産除去債務の金額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

グループ会社である大田市場ロジスティクスセンター株式会社は、東京都より定期借地権によって賃借している土地に荷捌施設を建設しており、退去の際には原状回復義務を負っておりますが、この施設は東京都卸売市場整備計画の一環として建設したものであり、中核的な拠点市場としての機能を十分に発揮し、品質管理の高度化及び物流の効率化を図るという東京都の目的に沿ったものであるため、その特殊性において施設の継続性が求められるものであります。したがって、土地の使用期限は実質的には明確でなく、施設の撤去ならびに退去時期を合理的に予想することができず、かつ原状回復義務の蓋然性や債務性は低いことから、資産除去債務は計上しておりません。

また、グループ会社である東一川崎中央青果株式会社は、川崎市より定期借地権によって賃借している土地に荷捌施設等を建設しており、退去の際には原状回復義務を負っておりますが、この施設は川崎市中央卸売市場北部市場中長期プラン基本計画の一環として建設したものであり、川崎市卸売市場機能の強化、効率的な市場運営、場内空き施設の利用促進による安心安全な食料品の安定供給という川崎市の目的に沿ったものであるため、その特殊性において施設の継続性が求められるものであります。したがって、土地の使用期限は実質的には明確でなく、施設の撤去ならびに退去時期を合理的に予想することができず、かつ原状回復義務の蓋然性や債務性は低いことから、資産除去債務は計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当社及び連結子会社は、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として、賃貸用オフィスビル、土地及び荷捌施設等を所有しております。なお、賃貸用オフィスビルの一部と荷捌施設については、一部の連結子会社を使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

この賃貸用オフィスビル等に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)
賃貸等不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	8,650,414	8,368,965
期中増減額	281,448	177,093
期末残高	8,368,965	8,191,872
期末時価	18,710,751	18,447,114
賃貸等不動産として使用される部分を含む 不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	316,164	303,952
期中増減額	12,211	12,213
期末残高	303,952	291,739
期末時価	390,411	380,593

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち前連結会計年度の主な減少額は賃貸用から自社利用に転用した施設(303,056千円)によるものであります。当連結会計年度の主な減少額は減価償却によるものであります。
3. 前連結会計年度末の時価については、主に「不動産鑑定評価基準」に基づいて社外の不動産鑑定士が算定した金額であります。
- 当連結会計年度末の時価については、主に「不動産鑑定評価基準」に基づいて社外の不動産鑑定士が算定した金額を指標等を用いて調整したものであります。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)
賃貸等不動産		
賃貸収益	1,414,611	1,381,544
賃貸費用	788,545	791,254
差額	626,066	590,289
その他(売却損益等)	-	-
賃貸等不動産として使用される部分を含む 不動産		
賃貸収益	22,360	22,320
賃貸費用	9,604	9,650
差額	12,755	12,669
その他(売却損益等)	-	-

- (注) 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、経営管理用として一部の連結子会社を使用している部分を含むため、当該部分の賃貸収益は計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他事業 (注1)	合計
	果実事業	野菜事業	計		
一時点で移転される財	56,215,975	54,419,149	110,635,125	1,701,531	112,336,656
一定の期間にわたり移転される財	-	-	-	-	-
顧客との契約から生じる収益	56,215,975	54,419,149	110,635,125	1,701,531	112,336,656
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	56,215,975	54,419,149	110,635,125	1,701,531	112,336,656

(注)「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、青果物の包装資材の販売であります。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他事業 (注1)	合計
	果実事業	野菜事業	計		
一時点で移転される財	58,552,068	61,101,246	119,653,314	1,897,442	121,550,757
一定の期間にわたり移転される財	-	-	-	-	-
顧客との契約から生じる収益	58,552,068	61,101,246	119,653,314	1,897,442	121,550,757
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	58,552,068	61,101,246	119,653,314	1,897,442	121,550,757

(注)「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、青果物の包装資材の販売であります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から当連結会計年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権（期首残高）	5,426,938	5,368,921
顧客との契約から生じた債権（期末残高）	5,368,921	5,353,579

当社グループは、卸売市場法に基づき中央卸売市場において全国の生産者より集荷した果実や野菜を市場内の仲卸業者及び売買参加者等に販売しております。当社の取扱品目は主に野菜や果実などの生鮮食料品であることから、流通スピードの確保が求められており、そのため産地への代金支払い期間は1週間程度と短期間であります。

また、代金回収については主に「代払制度」によっております。「代払制度」とは当社グループの卸売販売顧客である仲卸業者及び売買参加者が各々組織する組合が、その組合員である当該買受人の支払債務を保証のうえ代払を行なう仕組みであります。当該組合からの代金回収期間は1週間程度と短く設定されております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社及び連結子会社の報告セグメントは、当社及び連結子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社及び連結子会社は、品目別に事業部門を置き、各事業部門は取り扱う品目について国内の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社及び連結子会社は、品目別のセグメントから構成されており、「果実事業」、「野菜事業」の2つを報告セグメントとしております。

「果実事業」は果実品目の卸売及び輸入青果物の購入販売を行っております。「野菜事業」は野菜品目及び青果物加工品の卸売を行っております。

なお、当社及び連結子会社は、内部管理上、事業セグメントに資産を配分しておりません。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他事業 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	果実事業	野菜事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	56,215,975	54,419,149	110,635,125	1,701,531	112,336,656	-	112,336,656
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	56,215,975	54,419,149	110,635,125	1,701,531	112,336,656	-	112,336,656
セグメント利益	2,948,468	4,852,769	7,801,238	19,611	7,820,850	5,803,389	2,017,461
その他の項目 減価償却費	9,060	12,799	21,860	4,286	26,147	505,151	531,298

- (注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、青果物の包装資材の販売であります。
2. セグメント利益の調整額 5,803,389千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は各報告セグメントに帰属しない補助・管理部門にかかる費用であります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。
4. 減価償却費には、長期前払費用の償却費が含まれております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他事業 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	果実事業	野菜事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	58,552,068	61,101,246	119,653,314	1,897,442	121,550,757	-	121,550,757
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	58,552,068	61,101,246	119,653,314	1,897,442	121,550,757	-	121,550,757
セグメント利益	3,196,566	5,073,863	8,270,430	36,645	8,307,075	6,243,754	2,063,320
その他の項目							
減価償却費	12,176	19,135	31,311	2,456	33,767	512,205	545,973

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、青果物の包装資材の販売であります。

2. セグメント利益の調整額 6,243,754千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は各報告セグメントに帰属しない補助・管理部門にかかる費用であります。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4. 減価償却費には、長期前払費用の償却費が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	卸売市場法の適用を受けるもの		卸売市場法の適用 を受けないもの	合計
	委託品	買付品		
外部顧客への売上高				
果実事業	2,705,852	42,346,286	11,163,836	56,215,975
野菜事業	6,806,533	47,612,616	-	54,419,149
その他事業	-	-	1,701,531	1,701,531
合計	9,512,385	89,958,903	12,865,367	112,336,656

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上の相手先はないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	卸売市場法の適用を受けるもの		卸売市場法の適用 を受けないもの	合計
	委託品	買付品		
外部顧客への売上高				
果実事業	3,123,823	43,755,248	11,672,996	58,552,068
野菜事業	7,326,518	53,774,727	-	61,101,246
その他事業	-	-	1,897,442	1,897,442
合計	10,450,342	97,529,976	13,570,438	121,550,757

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上の相手先はないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

当社はのれんの償却額を報告セグメントに配分しておりません。なお、のれんは前連結会計年度末に取得したため償却額は発生しておらず、未償却残高は10億41百万円であります。当該のれんは子会社株式を取得した際に発生したものであります。

未償却残高については、企業結合日以降、連結決算日までの期間が短く、企業結合日時点の識別可能資産及び負債の特定及び時価の見積りが未了であるため、取得原価の配分が完了しておらず、暫定的に算定された金額であります。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

当社はのれんの償却額を報告セグメントに配分しておりません。のれんの償却額は33,596千円、未償却残高638,342千円であります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当事項はありません。



( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	3,928円92銭	4,134円80銭
1株当たり当期純利益金額	237円11銭	234円13銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	37,972,264	39,949,238
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	411,793	420,527
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	37,560,470	39,528,711
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	9,560,000	9,560,000

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	2,266,783	2,238,242
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	2,266,783	2,238,242
普通株式の期中平均株式数(株)	9,560,000	9,560,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	90,000	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	130,000	130,000	0.4	-
1年以内に返済予定のリース債務	3,071	2,670	1.6	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	585,000	455,000	0.4	2024年4月1日～ 2027年9月21日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	7,029	4,359	1.8	2024年4月1日～ 2026年3月9日
合計	815,101	592,029	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内(千円)	2年超3年以内(千円)	3年超4年以内(千円)	4年超5年以内(千円)
長期借入金	130,000	130,000	130,000	65,000
リース債務	2,710	1,648	-	-

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	16,162,256	17,741,146
売掛金	2,393,690	2,387,283
有価証券	298,800	-
商品	79,468	82,215
貯蔵品	1,095	927
前払費用	220,779	217,535
その他	344,000	300,788
貸倒引当金	21,942	21,439
流動資産合計	21,018,149	22,194,456
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	3,292,363	3,290,926
構築物（純額）	448,108	701,130
機械及び装置（純額）	3,311,564	3,387,835
車両運搬具（純額）	34,965	19,063
工具、器具及び備品（純額）	3,103,429	3,125,210
土地	2,684,266	2,684,266
リース資産（純額）	9,057	6,459
建設仮勘定	6,360	-
有形固定資産合計	6,526,115	6,831,892
<b>無形固定資産</b>		
電話加入権	13,087	13,087
ソフトウェア	3,576,389	3,531,737
リース資産	610	412
ソフトウェア仮勘定	47,672	21,637
無形固定資産合計	637,759	566,874
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	6,584,915	7,241,941
関係会社株式	3,537,988	3,569,338
出資金	5,107	5,107
従業員に対する長期貸付金	4,239	2,740
関係会社長期貸付金	807,880	549,840
長期前払費用	77,382	70,469
繰延税金資産	-	5,023
その他	321,409	324,407
貸倒引当金	47,370	45,473
投資その他の資産合計	11,291,550	11,723,393
固定資産合計	18,455,426	19,122,160
資産合計	39,473,576	41,316,616

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
受託販売未払金	2,120,429	2,110,671
買掛金	2,101,204	2,105,393
リース債務	2,851	2,670
未払金	633,942	901,547
未払費用	43,171	44,038
未払法人税等	399,648	451,586
未払消費税等	122,167	98,839
預り金	137,345	116,061
前受収益	13,087	13,159
賞与引当金	272,947	254,576
役員賞与引当金	27,400	27,593
資産除去債務	-	34,598
<b>流動負債合計</b>	<b>3,880,197</b>	<b>4,105,735</b>
<b>固定負債</b>		
リース債務	7,029	4,359
繰延税金負債	143,774	-
退職給付引当金	1,376,892	1,389,039
役員退職慰労引当金	398,762	436,529
資産除去債務	71,154	39,862
その他	279,805	279,805
<b>固定負債合計</b>	<b>2,277,417</b>	<b>2,149,595</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,157,614</b>	<b>6,255,331</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	478,000	478,000
資本剰余金		
資本準備金	1,505	1,505
資本剰余金合計	1,505	1,505
利益剰余金		
利益準備金	119,500	119,500
その他利益剰余金		
買換資産圧縮積立金	585,235	569,853
収用等資産圧縮積立金	214,358	203,682
別途積立金	28,758,550	30,358,550
繰越利益剰余金	1,910,022	2,016,956
利益剰余金合計	31,587,666	33,268,542
<b>株主資本合計</b>	<b>32,067,171</b>	<b>33,748,047</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	1,248,789	1,313,237
評価・換算差額等合計	1,248,789	1,313,237
<b>純資産合計</b>	<b>33,315,961</b>	<b>35,061,285</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>39,473,576</b>	<b>41,316,616</b>

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
<b>売上高</b>		
受託品売上高	8,789,582	8,985,371
買付品売上高	81,112,103	83,366,040
売上高合計	89,901,685	92,351,412
<b>売上原価</b>		
買付品売上原価		
商品期首棚卸高	44,654	79,468
当期商品仕入高	77,341,233	79,545,965
合計	77,385,887	79,625,434
商品期末棚卸高	79,468	82,215
買付品売上原価	77,306,418	79,543,218
売上原価合計	77,306,418	79,543,218
<b>売上総利益</b>	12,595,267	12,808,193
<b>販売費及び一般管理費</b>		
完納奨励金	1,776,452	1,819,473
従業員給料	3,042,428	3,008,621
従業員賞与	566,828	562,168
役員退職慰労引当金繰入額	36,834	37,766
賞与引当金繰入額	272,947	254,576
役員賞与引当金繰入額	27,400	27,593
退職給付費用	106,316	107,521
福利厚生費	716,250	710,074
減価償却費	508,142	497,377
その他	3,677,213	3,825,598
販売費及び一般管理費合計	10,730,814	10,850,771
<b>営業利益</b>	1,864,452	1,957,422
<b>営業外収益</b>		
受取利息	6,152	6,283
有価証券利息	12,079	16,229
受取配当金	168,964	180,597
不動産賃貸料	748,944	697,050
貸倒引当金戻入額	-	1,800
デリバティブ評価益	56,550	-
雑収入	124,619	113,510
営業外収益合計	1,117,311	1,015,472

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業外費用		
支払利息	66	147
不動産賃貸費用	324,501	293,555
雑支出	519	45,634
営業外費用合計	325,086	339,337
経常利益	2,656,677	2,633,557
税引前当期純利益	2,656,677	2,633,557
法人税、住民税及び事業税	828,862	843,136
法人税等調整額	6,418	177,255
法人税等合計	822,444	665,881
当期純利益	1,834,233	1,967,676

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					買換資産圧縮積立金	収用等資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	478,000	1,505	1,505	119,500	600,617	225,034	26,908,550	2,138,731
当期変動額								
剰余金の配当								239,000
当期純利益								1,834,233
買換資産圧縮積立金の取崩					15,381			15,381
収用等資産圧縮積立金の取崩						10,676		10,676
別途積立金の積立							1,850,000	1,850,000
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	15,381	10,676	1,850,000	228,708
当期末残高	478,000	1,505	1,505	119,500	585,235	214,358	28,758,550	1,910,022

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
	利益剰余金合計				
当期首残高	29,992,433	30,471,938	1,374,571	1,374,571	31,846,509
当期変動額					
剰余金の配当	239,000	239,000			239,000
当期純利益	1,834,233	1,834,233			1,834,233
買換資産圧縮積立金の取崩	-	-			-
収用等資産圧縮積立金の取崩	-	-			-
別途積立金の積立	-	-			-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			125,781	125,781	125,781
当期変動額合計	1,595,233	1,595,233	125,781	125,781	1,469,451
当期末残高	31,587,666	32,067,171	1,248,789	1,248,789	33,315,961

当事業年度（自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
				買換資産圧縮積立金	収用等資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	478,000	1,505	1,505	119,500	585,235	214,358	28,758,550	1,910,022
当期変動額								
剰余金の配当								286,800
当期純利益								1,967,676
買換資産圧縮積立金の取崩					15,381			15,381
収用等資産圧縮積立金の取崩						10,676		10,676
別途積立金の積立							1,600,000	1,600,000
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	15,381	10,676	1,600,000	106,934
当期末残高	478,000	1,505	1,505	119,500	569,853	203,682	30,358,550	2,016,956

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
	利益剰余金合計				
当期首残高	31,587,666	32,067,171	1,248,789	1,248,789	33,315,961
当期変動額					
剰余金の配当	286,800	286,800			286,800
当期純利益	1,967,676	1,967,676			1,967,676
買換資産圧縮積立金の取崩	-	-			-
収用等資産圧縮積立金の取崩	-	-			-
別途積立金の積立	-	-			-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			64,447	64,447	64,447
当期変動額合計	1,680,876	1,680,876	64,447	64,447	1,745,324
当期末残高	33,268,542	33,748,047	1,313,237	1,313,237	35,061,285



【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

…総平均法に基づく原価法によっております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

…時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)によっております。なお、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。

市場価格のない株式等

…総平均法に基づく原価法によっております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品 先入先出法による原価法によっております。

(2) 貯蔵品 移動平均法による原価法によっております。

なお、棚卸資産の貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物及び構築物…定額法を採用しております。

上記以外の有形固定資産…定率法を採用しております。

耐用年数及び残存価額は、主として法人税法の定めと同一の基準によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 投資その他の資産

長期前払費用…定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、過去の貸倒実績率を勘案した貸倒損失の将来発生見込率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支払に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員に対する退職給付に備えるため、簡便法により当事業年度末における退職給付債務の見込額(自己都合により退職する場合の当事業年度末要支給額相当額)を計上しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

市場内に集荷される青果物等の販売については、市場内で顧客に青果物等を引き渡した時点で、市場に集荷されない青果物等の販売については、生産者が顧客に青果物等を出荷した時点で収益を認識しております。

なお、青果物等の販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する青果物等と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

繰延税金資産(純額) 5,023千円

(繰延税金負債と相殺前の金額は、956,615千円であります)

(2) 財務諸表利用者の理解に資するその他の情報

算出方法

将来減算一時差異に対して、将来の収益力に基づく課税所得及びタックス・プランニングに基づき、繰延税金資産の回収可能性を判断し、スケジューリング可能な将来減算一時差異に対して繰延税金資産を計上しております。課税所得の見積りは経営計画を基礎としております。

主要な仮定

課税所得の見積りの基礎となる経営計画における主要な仮定は、過年度販売実績に基づく予想販売数量及び予想販売単価であり、翌事業年度以降の当社の経営環境に著しい変化を見込んでおりません。

翌事業年度の財務諸表に与える影響

青果物市場取引は天候によって影響を受けるため、主要な仮定である過年度販売実績に基づく予想販売数量及び予想販売単価は、見積りの不確実性が高く、経営計画の前提となっている販売数量や販売単価が大幅に減少又は下落した場合は、繰延税金資産の取崩が発生する可能性があります。

(貸借対照表関係)

1 保証債務

次の債務保証を行っております。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
東一川崎中央青果株式会社	千円	千円
(短期借入金)	60,000	-
(長期借入金)	715,000	585,000
(受託販売未払金)	62,870	71,300
(買掛金)	32,197	13,089
(未払金)	13,505	13,495
大田市場事務棟空調設備共同利用団体		
(リース債務)	403,782	304,974
計	1,287,355	987,859

2 関係会社に対する資産及び負債

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
売掛金	74,599千円	70,589千円
受託販売未払金及び買掛金	41,107	60,303

3 当期において、国庫等補助金の受入れにより、機械及び装置について20,000千円の圧縮記帳を行いました。

なお、固定資産に係る国庫等補助金の受入れによる圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
建物	109,615千円	109,615千円
機械及び装置	59,584	79,584
器具備品	25,702	25,702
ソフトウェア	1,909	1,909

(損益計算書関係)

販売代金のうち代払制に基づく契約期限までの完納額に対して、東京都中央卸売市場条例に基づき東京都知事の承認を得て交付した金額であります。

(有価証券関係)

前事業年度(2022年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式3,441,748千円、関連会社株式96,240千円)は、市場価格のない株式等のため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載していません。

当事業年度(2023年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式3,441,748千円、関連会社株式127,590千円)は、市場価格のない株式等のため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載していません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 ( 2022年 3月31日 )	当事業年度 ( 2023年 3月31日 )
繰延税金資産		
賞与引当金	83,576千円	77,951千円
未払事業税	25,706	28,931
退職給付引当金	421,604	425,323
役員退職慰労引当金	122,101	133,665
その他有価証券評価差額金	19,940	30,926
貸倒引当金	21,223	20,488
ゴルフ会員権評価損	33,796	33,796
投資有価証券評価損	67,201	66,261
減損損失	616,379	611,072
関係会社株式評価損	215,415	215,415
その他	102,295	95,983
繰延税金資産小計	1,729,241	1,739,817
評価性引当額	948,397	783,201
繰延税金資産合計	780,843	956,615
繰延税金負債		
買換資産圧縮積立金	258,286	251,497
収用等資産圧縮積立金	94,604	89,892
その他有価証券評価差額金	567,590	607,035
その他	4,135	3,166
繰延税金負債合計	924,617	951,591
繰延税金資産の純額	143,774	5,023

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 ( 2022年 3月31日 )	当事業年度 ( 2023年 3月31日 )
法定実効税率	30.6%	30.6%
( 調整 )		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.9	1.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6	0.6
評価性引当額増減	0.0	6.4
その他	0.0	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.9	25.3

( 企業結合等関係 )

取得による企業結合

連結財務諸表の「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、記載を省略しております。

( 収益認識関係 )

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

【附属明細表】  
【有価証券明細表】  
【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価 証券	その他有 価証券	イオン株式会社	14,500	37,207
		オーケー株式会社	600,000	91,500
		株式会社大田花き	500,100	373,574
		株式会社ジェイディエス	110	5,500
		東京急行電鉄株式会社	9,516	16,767
		株式会社みずほフィナンシャルグループ	43,448	81,595
		ユナイテッド・スーパーマーケット・ホール ディングス株式会社	34,550	38,488
		株式会社いなげや	177,300	227,475
		株式会社セブン&アイ・ホールディングス	83,748	500,394
		株式会社サカタのタネ	563,900	2,204,849
		株式会社高知青果市場	43,560	5,328
		大果大阪青果株式会社	8,000	24,000
		東京千住青果株式会社	115,000	80,020
		東京多摩青果株式会社	80,000	300,000
		福岡大同青果株式会社	8,065	24,195
		札幌みらい中央青果株式会社	28,000	10,000
		セントライ青果株式会社	6,318	22,113
		横浜丸中ホールディングス株	300,000	150,000
		株式会社ライフコーポレーション	3,450	8,904
その他 8銘柄	102,426	68,638		
		計	2,721,991	4,270,550

【債券】

種類及び銘柄		券面総額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価 証券	その他有 価証券	10回三菱UFJフィナンシャルグループ永久劣後債	200,000	199,270
		第20回みずほフィナンシャルグループ劣後債	100,000	99,350
		第1回九州電力劣後債(利払繰延・期限前償還条項付)	200,000	198,825
		第1回オリックス劣後債	200,000	197,720
		第1回アサヒGHD利払繰延・期限前劣後債	100,000	100,040
		第1回ENEOS HD利払繰延・期限前劣後債	100,000	98,410
		第1回三菱商事利払繰延・期限前劣後債	100,000	98,476
		1回三菱HCキャピタル利払繰延期限前劣後債	100,000	97,790
		第1回丸紅期限前条項付き劣後債	100,000	98,500
		2回東京センチュリー利払繰延期限前劣後債	200,000	200,020
		第1回関西電力劣後債(利払繰延・期限前償還条項付)	100,000	97,258
		2回日立キャピタル利払繰延期限前償還劣後債	200,000	197,180
		49回東京電力パワーグリッド社債	200,582	196,620
		28回SBIホールディングス社債	202,092	198,900
		30回イオンモール社債	100,000	99,240
		みずほFG14回任意償還条項付無担保永久社債	300,000	296,970
計		3,002,674	2,971,390	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却 累計額又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	6,855,001	169,504	49,883	6,974,621	4,066,695	191,091	2,907,926
構築物	984,043	294,229	210,472	1,067,800	366,669	66,140	701,130
機械及び装置	916,852	133,970	-	1,050,822	662,987	54,249	387,835
車両運搬具	196,574	995	780	196,789	177,725	21,199	19,063
工具、器具及び備品	700,772	91,947	46,418	746,302	621,092	49,861	125,210
土地	2,684,266	-	-	2,684,266	-	-	2,684,266
リース資産	11,733	-	-	11,733	5,274	1,446	6,459
建設仮勘定	6,360	328,672	335,032	-	-	-	-
有形固定資産計	12,355,605	1,019,318	642,587	12,732,336	5,900,444	383,988	6,831,892
無形固定資産							
電話加入権	13,087	-	-	13,087	-	-	13,087
ソフトウェア	1,323,583	222,186	-	1,545,769	1,014,032	266,838	531,737
リース資産	989	-	-	989	577	197	412
ソフトウェア仮勘定	47,672	191,431	217,466	21,637	-	-	21,637
無形固定資産計	1,385,333	413,617	217,466	1,581,484	1,014,609	267,036	566,874
長期前払費用	89,400	-	1,218	88,182	17,712	5,694	70,469

(注) 無形固定資産及び長期前払費用については、当期首残高に当期首償却済の残高を含んでおらず、当期末残高には期末償却済の残高を含んでおります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	69,312	24,200	-	26,600	66,912
賞与引当金	272,947	254,576	272,947	-	254,576
役員賞与引当金	27,400	27,593	27,400	-	27,593
役員退職慰労引当金	398,762	37,766	-	-	436,529

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の洗替額25,400千円、貸倒懸念債権の洗替額1,200千円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	東京都で発行する日本経済新聞
株主に対する特典	該当ありません



## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は上場会社ではありませんので、金融商品取引法第24条の7第1項の適用がありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第80期）（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）2022年6月28日関東財務局長に提出

(2)半期報告書

（第81期中）（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）2022年12月27日関東財務局長に提出

(3)臨時報告書

2022年6月27日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号に基づく臨時報告書  
であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

2023年6月26日

東京青果株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鳥羽 正浩

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉川 高史

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京青果株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京青果株式会社及び連結子会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 連結財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。  
2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2023年6月26日

東京青果株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鳥羽 正浩

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉川 高史

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京青果株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第81期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京青果株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役々の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 財務諸表に対する経営者及び監査役々の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。